

ニュースレターくもと News Letter Kumamoto

秋
Autumn
2013
vol. 99

■ Publisher : Kumamoto International Foundation
KCIC 4-18 Hanabata-cho, Chuo-ku, Kumamoto City, 860-0806
Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/

■ 発行 : 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
Tel : 096-359-2121
e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/



CONTENTS



第1回グローバルワークキャンプin阿蘇 報告 ……1P~2P
ラオスレポート ……3P~4P
プロヴァンスからこんにちは! ……5P

世界を知る ……6P
「留学生ワンストップ窓口」オープン! ……7P
ちょっと日本語/きふプロ ……8P

2013年夏8月20日(火)から3泊4日、国立阿蘇青少年交流の家で、第1回目のグローバルワークキャンプ(以下、GWCと記述)を開催しました。文部科学省の青少年教育施設を活用した国際交流事業委託を受け、日本人学生と日本で学業に励む留学生に加え、アジアを中心に直接大学生を招聘し、グローバル時代に必要な資質を磨く絶好の機会となりました。(日本人学生50名、留学生含む外国人学生50名の計100名)GWCのコンセプトは、グローバル人材の育成~自分たち大学生に今できること~です。企画から当日の運営までを大学生実行委員会が受け持ちました。中心となる分科会活動は「観光」「フェアトレード」「食」「伝統文化」「国際理解」の五つで、大学生が興味・関心を持っているテーマが選ばれました。実行委員の大学生は、熊本だけではなく、福岡、大分、遠くは茨城と離れていましたが、インターネットのスカイプやフェイスブックを活用して話し合いを重ねてきました。フェイスブックは大学生への広報としても活躍し、開催後に参加者が立ち上げたページでは当日の様子や思い出が多くアップされています。

このようにGWCを成功へ導いた事の一つに、1日目のアイスブレイキングへの拘りがありました。「最初にどれだけ打ち解けた空間を演出できるか!」がカギとなると考え、ゆっくりと十分に時間を取り、ホップ(全体で楽しいゲーム)~ステップ(分科会に分かれて競い合うゲームや創作ダンス)~ジャンプ(キャンプファイヤーで創作ダンスのお披露目会)の三段階で、参加者全員の対話と笑顔を導くことができ、2日目からそれぞれのメンバーが特色を活かしながらお互いに通訳し助け合うなど、言葉・文化の壁を超えた活動となりました。このGWCが育んだ絆が世界に広がっていくことを期待します。

この4日間のGWCを実行委員として企画・運営した内尾晶子さん(福岡九州大学21世紀プログラム課程2年生)に、以下レポートしてもらいます。

「第1回グローバルワークキャンプ in ASOを開催して」

第1回グローバルワークキャンプ実行委員 内尾 晶子(九州大学 2年)

①基調講演

昭和女子大学の興梠寛先生をお招きし、ボランティアについて「私と世界に変化を起こそう」というテーマでお話いただきました。先生はお話の中で「自分の中にあるものを最大限に活用して、社会の為に生きる」と話された言葉は、参加者それぞれに、今後の大学生活を歩む上でのヒントになりました。

②ワークショップ1(アイスブレイキング)

国立青少年教育振興機構の北見靖直さんによるアイスブレイクでは、ユニークで巧な進行で参加者の心が誘い寄せられ、全体の和が見る見るうちに広がっていきました。参加同士の対話が生まれ、笑顔あり、ダンスあり、一体感ができました。まさに、アイスブレイキングの重要性と必要性を実感することができました。



みんなの笑顔が輝いたワークショップ1

③キャンプファイヤー

100人の参加者が1つの火を囲み、歌やダンスを楽しみました。ダンスではマイムマイムや分科会ごとに考えた創作ダンス、そしてラオスの民族舞踊やインドの音楽に

合わせた踊りで盛り上がり、友情を深めることができました。



世界の踊りで盛り上がったキャンプファイヤー

④分科会活動

5つの分科会(観光・フェアトレード・食・伝統継承・国際理解)に分かれ、「今私たち大学生にできることは?」というテーマでディスカッションやフィールドワークを行いました。この分科会の時間がキャンプの中でも1番長かったので、参加者にとっても印象深かったようです。

⑤ワークショップ2

全国で活躍している10の学生団体をお招きし、団体紹介をしていただきました。分科会活動でそれぞれに社会の問題について勉強した後だったので、自分と同世代の人たちがどのような活動をしているのか!を熱心に話を聞く機会となりました。

⑥民族衣SHOW!!

ラオスとインド、スリランカの参加者達が自国の民族衣装と“ありがとう”のあいさつを紹介しました。当初予定していなかったプログラムでしたが、今まで見たことのない他国の衣装にみんな興味津々、お互いの文化に触れる機会となりました。



民族衣SHOW!!みんなでラオス・ダンス★

⑦シャッフル分科会

分科会の垣根を超えて交流・意見交換をしました。自分の分科会以外の活動内容を聞いたり、参加者達が自由に興味のあるテーマについて話をする時間は新しい知識や刺激を得るきっかけになったようです。特に「国際結婚」について話したグループでは文化によって異なる浮気の方考え方について盛り上がり、面白かったです。例えば、ドイツでは、女友達の彼氏を褒めるのは気があると思われるそうで、タブーだそうです。



シャッフル分科会みんなで意見交換

⑧全体報告会

4日間の総まとめ、各分科会での話し合い・活動したことを、「自分たち大学生に今できること」というテーマで発表してもらいました。参加者全員に発表する機会ができるように、回遊型のポスターセッションを導入しました。恥ずかしそうにそれでも懸命に話す者、不慣れな日本語でトライする外国人参加者、英語で発表する者、それぞれに自分らしい素晴らしい発表で自信を持ち、とても視野が広がったと思います。

特に、参加者から「来て良かった!」、「出逢いに感謝しています。」という言葉聞いた時には大感動でした。



大観峰で全員集合写真

1.感想・今後

今回の GWC に実行委員として参加し、多くの経験をさせて頂きました。普段、大学生活を送っている中では行かないのでできないキャンプの運営はとても難しく、苦勞することも多くありました。しかし、運営を行う中で実行委員会の仲間に助けってもらったり、参加者の人と仲良くなったり、得ることも沢山ありました。最後に参加者の皆さんを始め、色々な人の笑顔を見ることができた時には本当に嬉しくて感動しました。そして、実行委員をやって良かったなと心から思いました。この経験を今後大学生活に活かし、もっと積極的に自分の生活を楽しみたいと考えています。来年は私自身専門の勉強や言語・文化の勉強を進め自分も成長した上で、来年も実行員として今年以上に良いキャンプを作ります。大学生のみなさんは是非来年参加してほしいです!社会人のみなさんには是非、サポートメンバーに参加してくださいと有り難いです。

最後になりましたが、今回の GWC に参加して下さった参加者、実行委員、そしてサポートして下さったみなさん、本当にありがとうございました!

グローバルワークキャンプ情報はこちらの facebook (フェイスブック) ページを check !

<https://www.facebook.com/globalworkcamp.aso>

平成24年度 JICAパートナーシップセミナー



報告者：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 多文化共生・人づくり推進チーム 徳淵健一

前章(夏号)では、ピエンチャンやその周辺都市視察・報告をお伝えしましたが、本稿では、ラオス南部の都市パクセー訪問を中心にご報告させていただきます。

【2月13日(4日目)】 南部都市パクセーへ移動

この日は、ラオス南部のチャンパサック県の県庁所在地パクセーへ移動、2日間の日程でこのパクセーを含む周辺都市を訪問。

⑥不発弾・地雷分野に関するラオス・カンボジア南南協力
ラオスには戦争による負の遺産として、多くの不発弾(以下、UXO)が今なお放置されているをご存知ですか。ラオスは、世界有数のUXO汚染国であります。ラオス政府が公式に発表しているその汚染面積は8万7000 Km²とされ、国土の1/3を占めていると言われています。ベトナム戦争時、米軍によるクラスター爆弾の爆撃によって、ベトナム国境沿いを中心に約8,000万弾、ラオス人口約630万に対して実に12倍以上ものUXOが、今もなお地表に埋もれていると言われています。このクラスター爆弾とは、大型の弾体の中に複数の子弾と言われるテニスボールぐらいの大きさの爆弾が詰められたもので、それが空中で爆発すると子弾が広範囲に散布され、それぞれが小規模の爆発を起こすという恐ろしい爆弾です。UXOとなった子弾の大半は、地面から数十センチ程度の所に埋まっているものが多いため、農業者や子供たちが誤って踏んだり、また、このUXOを鉄屑だと勘違いし、売却しようとしたりして被害に遭うケースが後を絶たないと聞きました。

現在では、ラオス不発弾処理プログラム(UXO LAO)という組織が設立され、地雷撤去の知識と技術をもつカンボジアとラオスという「南」の2カ国が、その知識や経験を共有しながら(南南協力)、地域の人々の安全と貧困の解消を目指しています。

UXO LAOでは4人1チームで活動しますが、周辺住民への聞き込みや、米軍から提供された当時の軍事計画資料などに基づいて、入念に調査して情報収集することが、主な任務であります。また、住民などから通報を受けると、その地域に赴き、一定のエリアにロープを基盤の目のように張って区切り、そのひとつひとつの柵を丁寧に調べてゆくという作業を行います。

UXO発見には、安全のため、少量の鉄分を含む落下物にも反応する、性能が良い金属探知機を用いています。UXOが発見された周辺には、発見されていないものがある可能性が高いため、迂闊に歩き回ることもできず、非常に時間がかかる作業であると聞きました。

その後、実際にUXOの処理現場を案内してもらい、その処理の実演を見学しました。現場は、周辺に何の建物や大きな樹木もない、のどかで広大な農園でしたが、いざ現場に着いてみると、至る所に処理を待つだけとなった

UXOが散在し、それぞれが目印を兼ねた布切れで覆われていました。事前の説明でもありましたが、あまり踏みならされていない場所には絶対に足を踏み入れては危険だという注意を思い出し、背筋が凍る思いをしました。

これらUXOは、爆破処理されることが多く、その傍に誘導爆弾をセットし、200mほど離れた所から起爆装置の電源を入れ爆破処理するという手順で、私どもはその起爆装置の傍で見学することになりました。参加者の一人がその起爆装置のスイッチを入れ爆破処理を行いました。その爆音と爆風が十分に私どもの所まで届いたので、改めて処理の危険さと難しさ、また、どれぐらい年月を要する作業になることであろうということを考えさせられました。



【2月14日(5日目)】 サワラン県タオイ群のJICAサイトを見学

パクセーからベトナム方面に向かっておよそ150kmの地点にあるサワラン県タオイ郡にあるタオイ郡農業技術センター(以下、タオイTSC)などの見学。

⑦南部山岳丘陵地域生計向上プロジェクト (タオイTSCの視察)

タオイTSCは、パクセーからバスで片道約5時間(約150km)を要する山間部に位置していました。朝7時にパクセーを出発し、到着したのが正午前でした。このタオイTSCを含め周辺の村々は、自然農業や家畜飼育が主たる生業である小規模民族の農家が散在し、食料自給率が低く、ラオス政府からも貧困村と位置付けられています。このタオイTSCには、JICA専門家が駐在しており、安定した農作物を生産しその生計を向上するべく指導にあたっていました。しかし、専門家の話によると、彼らは食料に困ったら森林に入り、木の実草の実を取るという生活スタイルが今なお根付いているため、仮に専門家たちがこの地域から去ってしまうと、恐らく元々の生活に逆戻りしてしまうのではないかと危惧されていたことが印象的でした。私たちが訪問した頃が丁度昼食前でもあったため、現地の農家の方々から手料理と、ラオラオというお酒

が振る舞われました。ラオラオは前章でも述べましたが、客人と交流するためには不可欠なもので、かなりアルコール度数が高いものでしたが、折角、出されたものでもありましたので、飲まないわけにもいかずと私も含め他の参加者も少しずつ試飲させていただきましたが、意外に美味しかったです。

⑧中核農家の視察

その後、付近の中核農家も見学。驚いた事に、この村の入り口付近にあった民家には、クラスター爆弾の大型の弾体を、その民家の土台として用いられていました。負の遺産であるはずの爆弾の外殻を使うとは、逞しい民族です。



【2月15日(6日目)】

バクセーから首都ビエンチャンへ移動

(概況)バクセー市内周辺の施設見学～ビエンチャンへ移動

⑨青年海外協力隊 小学校教諭

(バクセー群ケオウドム小学校)

ラオスでは、児童の算数の学力が向上せず、落第や退学となるケースが多いため、その状況を改善するべく算数モデル校に指定された、バクセー市街地にあるケオウドム小学校に派遣されている青年海外協力隊員の活動現場を視察しました。

この隊員は、北海道から小学校教師の身分で現職参加し、ラオス人教師向けに算数の教え方を指導していました。同隊員の話によると、ラオス国自体に未だ明確な教育指導要領がないため、それぞれの公立学校ではその指導方法などは基本的に教師任せであるとか。そのため、子どもたちの学力も学校、教師によりけりであるため、ラオス人の裕福層は、私立の学校に通わせ、質の高い教育を受けさせることが一般的な事情であると聞きました。この隊員も自作の教材を使って試行錯誤をしながら、その指導にあたっていました。



⑩南部ラオスにおける一村一品(ODOP※)推進プロジェクト

日本のNGOが支援し、バナナの皮の繊維を抽出して縫製品を作っているODOPの村を視察。出来あがった製品をバザーや中心市街地に出て販売を行う事で自立生計の道筋を立てるというプロジェクト。NGOスタッフによると当該プロジェクトは4年目で、自立したいとの意識を持つ地元の女性を15名ほど集め、織物技術や類似商品との差を付けるためのコツなども併せて指導している。後

1年ほどでこのプロジェクトがひとまず完了し、日本人スタッフが撤退することになるが、撤退後、果たして彼女たちが自らその事業を継続できるかが課題だということを知りました。

また、別のサイトではお茶を生産。数年前までは地元の企業が、お茶を一手に買い取っていたが倒産したため、現在では殆どの農家が換金率の高いコーヒー栽培へとシフトしてしまったとの事です。私どもが視察した茶畑では、試験的に玉露を栽培していましたが、十分に暗室が作られている状態ではなく、設備や栽培技術も未だ浸透している状況にはありませんでした。他、日本のある企業は、日本で出資者を募り、ラオス国内にホテルを建設、主に日本人観光客の宿泊料で収入を得ると同時に黒米も栽培し、それを加工し、麺と焼酎を作り販売するなど、輸出して外貨を得ることで現地の人たちの生活水準の向上を図っていましたが、新しい収入源として効果的な手段であると感じました。

※ODOP…One District One Product movementの略



2月16日(土)～17日 帰国日

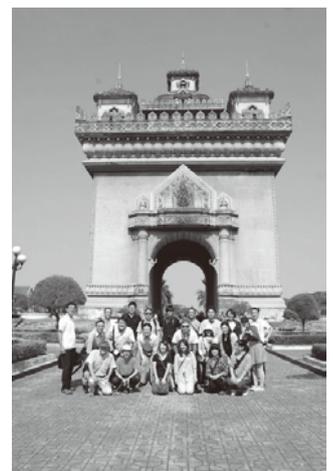
ラオス・ビエンチャンからタイ・バンコク経由～日本へ

16日ビエンチャンを離陸、バンコクで乗り継ぎ17日朝、日本(福岡)へ帰国。

(感想)

前章でも述べましたが、私自身としては初めての開発途上国(ラオス)訪問でした。日頃の業務上、元青年海外協力隊員や専門家等の方々から、これら途上国の現状などの話を聞き、ある程度の認識とイメージを持っていましたが、「百聞は一見に如かず」の格言の通り、実際に訪問してみて、また違う印象を持つに至りました。それは、ラオスが貧困国と言われながらも、実際にラオスの人々を見る限り、決して暗くふさがちなものではなく、逆に明るく、逞しく、のびやかな人々が多かったということです。

現代の日本に住む私たちの幸せの基準のひとつに物質量があると思いますが、彼らは決して物質が豊かでなくても特に困っている様子でもなく、何ら不満を感じていないような印象を持ちました。それでも先進国やNGOなどの支援が入り、物質的な豊かさの享受を受けた人々は、いつかは先進国と同じような価値観を持つに至ることだと思いますが、果たして、そういった支援の在り方が、本当に彼らが望んでいるものかという事を改めて考えさせられる契機となりました。



プロヴァンスからこんにちは! (第2弾)

2013年2月16日、熊本市はフランス・エクサンプロヴァンス市と「交流都市」協定の調印を行いました。(本誌Vol.97春号にその模様を掲載)

本秋号では、今夏フランスでジャパンエキスポ2013が開催され、熊本市が、熊本県と共同でブースを出展する中、「くまモン」や「ケロロ軍曹加藤清正バージョン」とともにシティプロモーション活動を行い、合わせてエクサンプロヴァンス市を訪問された漫画家でエッセイストの桜田幸子さんに報告していただきます。

寄稿者：桜田幸子さん(漫画家・エッセイスト)

去る7月2日～10日の9日間、私達は、熊本市シティプロモーション課が行う「フランス・ジャパンエキスポ」出展に伴い、交流訪問団として、フランスを訪れました。パティシエ、TVリポーター、漫画家など多様なジャンルで構成された私達一行は、様々な施設を訪問し、数多くの方々と交流を持つ事が出来たのです。



初夏と言え、まだ肌寒いパリは、街全体がまるでテーマパークのように美しく、それだけでも大満足な私達!! エッフェル塔や凱旋門、オペラ座を足早に巡りながら、ルーブル美術館の宗教画にもすっかり魅了されてしまいました。



ジャパンエキスポ2013では熊本県との共同ブースで熊本の魅力をアピール。会場では熊本の観光大使くまモンの人気は然る事ながら、ケロロ軍曹との熊本城をバックにした撮影会も人気上々で、コスプレでポーズを決めている姿に、日本の漫画を愛してくれるフランスの若者がこんなにいるのだと、想像を超えた熱気に感動を覚え

ずにはいられませんでした。

慌ただしくパリを離れ、後半は南仏エクサンプロヴァンス市へ移動。フランスの新幹線TGVでおよそ3時間。絵本のような車窓を眺めながら到着した同市は、太陽がきらめく芸術の都と呼ばれるにふさわしい古都です。数々の画家が過ごしたプロヴァンスにあるこの街では、グラネ美術館で間近に原画を鑑賞する事が出来き、画家ポール・セザンヌの生家を訪問することも出来ました。喜多流能楽師の狩野琇鵬氏が寄贈された素晴らしい能舞台も華を添えます。



しかも、私のこの旅の目的であった「少子化を克服した先進国フランスの子育ては日本と何が違うのか」現場を見たいという願いから、保育所や一般の家庭まで訪問する事が出来ました。ガーデンパーティにもご招待いただき、いろいろなお話を伺ううち、国自体の制度の違いや、経済的な問題はあるものの、子どもを取り巻く周りの人々の考え方や、何より夫婦の在り方、延いては女性の生き方まで、日本は学ばなければならない事が数多くあるのだと強く感じたところです。



最後になりましたが、大変親切にご案内下さったエクサンプロヴァンス市役所や姉妹都市協会の皆様のご厚意に心より感謝し、この経験をより広くたくさんの方に知ってもらえるよう活動を続けて行きたいと思っています。



世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

いま 東ティモールの現在

青年海外協力隊 平成23年度1次隊 **矢加部 咲**さん
(東ティモール派遣、職種:写真)

みなさんは“東ティモール”という国を知っていますか？東ティモール民主共和国は、インドネシアの東端にあるティモール島という小さな島の東半分を国土とする国です。国の面積は日本の岩手県と同じくらいの大きさ。2002年にアジアで一番新しい国として独立しました。人口約110万人の70%が30歳以下、平均年齢は約17歳



という若さに満ちた国です。

独立から10年が過ぎた現在、町並みは日々変わりつつあります。昨年は、国内初の映画館やショッピングモールがオープンしました。しかし、教育や医療など課題が残っている部分も多くあります。

東ティモールの若者は、そんな母国が抱える実情をしっかりと受け止め、日々たくましく生きています。彼らの多くは、家族や自分の生活を助けるためや学校に行くために働いてお金を稼いでいます。14歳から市場で働き自分で学費を稼いでいるという少女マリアは、「一番好きなこと



は？」と聞かれて「勉強すること。そして、ちょっとだけ遊びたい。」と答えました。学校に行かず、移動式のキオスクで物を売って生活する12歳の少年シプリは、夜は台車の側で眠ります。このように彼らの人生は、家庭や社会の環境に大きく左右されます。

若者の多いティモールでは、雇用の不足も深刻な問題です。仕事を見つげることができず、暇を持って余してギャングに入ったり、お酒に溺れたりする若者も少なくありません。そして、一度道を外れてしまった彼らをサポートする社会的な余裕が、東ティモールにはまだありません。



しかし、何かひとつ前進するきっかけをつかむだけで、彼らは大きく変わっていきます。前に進み始めた彼らは言います。「どんな両親のもとに生まれたか、過去に何があったか、そんなことについて考えなくていい。これから生きるために、自分自身を変えたい。」

現地の言葉であるテトゥン語で、若者たちは「foin-sae (フォインーサエ)」と呼ばれます。「foin」は「たった今、ちょうど」、「sae」は「昇る」という意味で、「今から世界に出る、輝いていく」人々という思いが込められています。普段のティモールの「foin-sae」たちはとてもよく笑います。そして人のことを笑わせることも大好きです。一人の少女が言いました。「人生は苦しい。けれど、喜びとともに歩いていく力がある。苦しいことの中から、日々の笑顔を見つけることができる。」彼らの笑顔は、アジアで一番新しい国、東ティモールの「これから」の息吹を感じさせる、力強さと輝きに満ちています。

2013年9月13日、国際交流会館2Fに、熊本の留学生をサポートする「留学生ワンストップ窓口」がオープンしました。

熊本県内14の高等教育機関には、約650名の外国人留学生在籍していますが(2013年5月現在)、さらにグローバル時代の人材として「熊本の留学生2,000人」という目標が掲げられています。世界各国での留学生誘致活動と併行して、留学生が暮らしやすい地域環境整備が不可欠です。

このためには、学業に加え、教育機関単独では困難な日本語、生活(異文化への適応)、住居、地元企業への就職、家族の呼び寄せ、さらにアルバイト等多様なサポートを行う総合的な窓口の必要性から、「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」(以下、コンソ熊本)の国際交流会館における「留学生ワンストップ窓口」開設となりました。コンソ熊本では、Facebook「くまもとキビル」で帰国留学生と熊本をつないだり、留学生シンポジウム等で市民の皆さんと留学生の交流の場を開設したり、「留学生」をキーワードに地域の活性化と発展に努めてまいります。



国際交流会館2Fへ、どうぞお気軽にお越しください!

Q.支援の対象はどんな人たちですか?

- ①熊本在留留学生
【相談受付】日常生活や、大学生生活、就職活動など、学生生活全般をサポートします。
【情報提供】ウェルカムパーティーや日本語支援など、各種情報提供を行います。
- ②留学生の家族
【相談受付】子どもの教育、住居、残在留資格など、家族の生活をサポートします。
- ③県内大学留学を希望する外国人
各大学の情報提供や、大学への連絡窓口となります。
- ④帰国留学生
FacebookなどのSNSを利用した、卒業生のネットワーク作りを支援します。

Q.いつ相談できますか?

利用時間

午前 9 時～午後5 時30 分(日・火・木・金)

午前11 時30 分～午後8 時(水)

※土・月はお休みです。

(休館日やイベント等により、変更あり。)

日本語・英語で相談できます!

留学生ワンストップ窓口(国際交流会館コンソ熊本デスク)

担当:宮崎 TEL:(096)359-2378

E-mail: miyazaki@consortium-kumamoto.jp

URL:http://consortium-kumamoto.jp/

Facebook

イベント情報 【第52回クリスマス・イヴ・パイプオルガンコンサート】

日 時: 2013年12月24日(火)

開 演: 午後7時(6時開場)

場 所: 熊本白川教会礼拝堂
(熊本市中央区九品寺 2-2-44)

演 奏 者: 山崎 幸子(やまさき ゆきこ)さん
熊本出身、エリザベト音楽大学卒業。
日本オルガニスト教会会員。

入 場 料: 無料

演奏曲目: カノン(パッヘルベル)、
ホワイトクリスマス、
ハレルヤ(ヘンデル)など。

問い合わせ先: 熊本県パイプオルガン実行委員会
(TEL) 096-363-4315

あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協心に感心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

*webでも公開しています。(http://www.kumamoto-if.or.jp/)

発行:年4回(4月、7月、10月、1月)部数:3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(区役所、市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ(この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金:1/8のおためしサイズ(1回)5,000円単発(1回)20,000円、半年契約(2回)30,000円
年間契約(4回)40,000円

★まずは、1/8のおためしサイズ(1回5,000円)で貴社の情報を発信しませんか!

ちょっと日本語/きふプロ

ちよつと日本語 Japanese Tip

「日本語の数え方」は難しい？

NPO法人日本語サポートあさ 代表 小川 ひろみ さん

「日本語教師です。」と自己紹介すると「日本語って難しいですよね。ひとつとか、一枚とか数え方も違うし…」と言われることがあります。文法についても同じですが一応の規則を理解すれば数え方もそれほど難しいものではありません。たとえば、長くて細いもの(～本)丸くて小さいもの(～個)機械(～台)平たくて薄いもの(～枚)冊子(～冊)コップやカップ(～杯)等で、それぞれ1・6・8・10のあとには小さい「つ」で例えば、いっこ・ろっばい・はっさつ・じゅっばい(じゅっばい)等。例外はあっても、およその見当は付くものです。「日本語は難しい」という日本人の思い込みを捨てて、ちょっと視点を変えて日本語をながめてみませんか。

きふプロ

インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ

インターネットではもっとたくさん紹介しています。
URL <http://kifblo.blog.ocn.ne.jp/blog/>

9月29日(日)午後、国際交流会館で、在住外国人に対する日本語支援「くらしのほんごくらぶ」の交流会「月見団子作り」が行われました。外国人学習者41名と、日本語支援ボランティア13名、サポートセンターボランティア5名が参加し、きな粉団子を作りました。グループに分かれて作業中、ボランティアと協力して日本語でレシピを読んだり、「きな粉って何?」「お月見ってどういう行事?」と日本語での会話がはずみます。家族で参加した、タンザニア出身のサンジョ君(6歳)は「お団子はおいしいし、みんなで作ったのが楽しかった!」と笑顔で話してくれました。

くらしのほんごくらぶでは、在住外国人の日本語学習を支援したり、日本文化を体験してもらったり、日本人ボランティアとの交流を促進するため、定期的に交流会を行っています。日本語支援ボランティアの活動に興味のある方は、お気軽に当事業団までご連絡ください!



◀ 家族みんなで お団子作り

▶ 国を越えて、みんな仲良し!

★平成25年度賛助会員募集!!★

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌「ニュースレターくまもと」の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催講座の受講料会員割引特典や、国際交流会館駐車場の割引もあります。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

平成26年3月までの会員期間となります。

＜入会のお申し込み・お問い合わせ＞

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

継続・新規ご加入ありがとうございました。

(平成25年6月21日～平成25年9月20日現在にご加入いただいた皆様) (個人)50音順(敬称略)

有馬 菜月	香川 さとみ	下山 敦史	松岡 郁子
有馬 徳隆	香月 麻里奈	白 濱 豊	松倉 裕二
稲田 晃一朗	鴻池 紘	竹下 真治	松村 紀代一
稲田 陵子	木庭 恵美子	立岡 紀子	松本 博文
井上 光次良	阪元 菫	橋村 俊也	守川 照光
岩崎 淳一	坂本 友美	林田 真美子	
大川 歩子	澤田 寛旨	福多 美奈子	

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています!
[団体]50音順(敬称略)

London Bridge International School

医療法人社団 愛育会 福田病院

学校法人 君が淵学園 崇城大学

学校法人 鎮西学園

株式会社熊本シティエフエム

株式会社 ニュースカイホテル

九州農水株式会社

熊本学園大学

熊本交通センターホテル

熊本市地域婦人会連絡協議会

熊本日協協会

コスギ不動産

財)熊本市駐車場公社

志成館高等学院

マルヒサ食品



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩 3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩 3分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前9時～午後8時
多文化共生オフィス(午前11時～午後6時)
096-359-4995(直通)

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00 a.m.-8:00 p.m.
Multicultural affairs office (11:00a.m.～6:00p.m.)
096-359-4995 (Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th～Jan 3rd